

5 番 児玉 美環子 議 員

1 子育て支援について

- (1) 本市は来年度から5歳児健診に取り組む、としている。就学前の早い時期から子どもの発達状況や特性に配慮したサポートができる点で、5歳児健診の役割は大きい。これまでのひかりくるくる事業との相違点、見込まれる効果及び、実施に向け体制整備について示されたい。
- (2) 保護者の中には、発達障がいや特別支援学級に対する偏見を持つ人もあり、療育に繋がりにくい場合がある。困っている子どもが、一日も早く発達支援・就学支援に繋がるよう、5歳児健診の際に保護者への丁寧な説明が必要であると考えているが、どうか。
- (3) 学校現場におけるインクルーシブ教育はどのように推進されているか、現状と課題を示されたい。
また、5歳児健診の実施により、特別支援学級での取組に期待できることは何か。

2 高齢者福祉について

- (1) 認知症の人に寄り添う「ユマニチュード」という介護の技法がある。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つを柱に、「あなたを大事に思っている」ということを、相手が理解できるように届けるケア技法であり、介護される側、する側、双方の尊厳が保たれる優れた介護技法であると考えている。本市のユマニチュードについての見解を示されたい。
- (2) 介護現場においてユマニチュードの普及啓発を推進する考えはないか。
また、認知症サポーターをはじめ多くの市民に対しても、ユマニチュードの普及啓発に取り組む考えはないか。

3 人と動物の共生について

- (1) 本市は、公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」を活用し、飼い主のいない猫に不妊去勢手術を施した上で元居た場所へ戻す「地域猫活動」を推進している。地域猫活動の現状と課題を示されたい。

- (2) 市民の理解と協力を得て、地域猫活動は推進される。本市で地域猫活動を行っている市民や団体などとの連絡協議の場はあるか。
- (3) 飼い主のいない猫の不妊去勢手術に関して、市の助成金を望む声が多く届いている。本市の見解を示されたい。